

はじめに

現在の日本では5.5組に1組の夫婦が実際に不妊の検査や治療を受けています。また、この数は年々増えているといわれ、今や不妊症は我が国の国民病といっても過言ではありません。しかし、不妊症の検査・治療にはさまざまな障害があり、これらの障害を克服していく必要性に迫られています。

幸いなことに、経済的な負担は不妊症診療の保険適用により改善が期待できます。また、保険適用に伴う啓発活動などにより、適切な情報の普及も期待されています。しかしながら、体外受精の治療周期あたりの妊娠率は成績が良好な30歳以下においても30%未満であり、現在の治療技術をもって治療が困難な不妊症が未だ数多く存在します。また、これらの不妊症については一般向けの情報が少なく、専門家以外が体系立てて情報を得ることが困難でした。

この情報の壁を乗り越えるべく、本冊子では治療が難しいさまざまな不妊症に対する最先端の検査・治療技術について体系的に整理して、現時点での情報を専門家以外向けにコンパクトにまとめました。なお、不妊症については研究も日進月歩のため、実際の検査・治療にあたっては改めて担当医からの説明を受けていただければと存じます。

子どもをほしいと願う人が、前向きに検査・治療に取り組めるためにこの冊子をお役立ていただければ幸いです。

厚生労働省 令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

「難治性不妊の病態と新規医療技術の評価・分析に基づく不妊症診療の質向上と普及に資する研究」

事業担当代表者

東京大学医学部産婦人科学教室 主任教授

大須賀 穰